

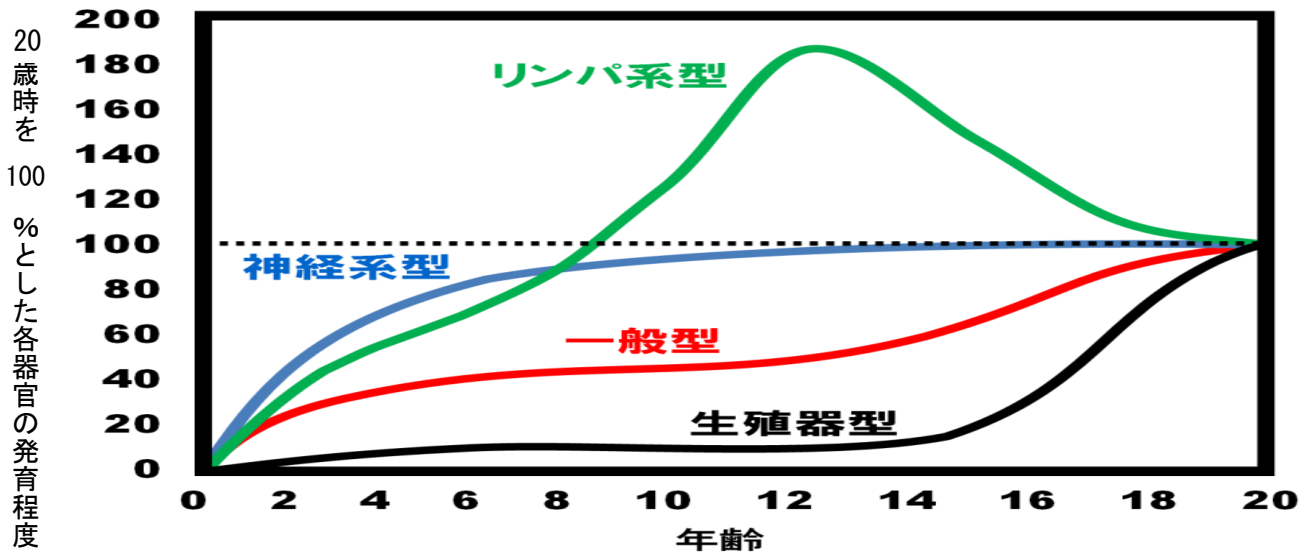
第2期兵庫県スポーツ推進計画

別冊資料

運動遊びの必要性について

1 運動・スポーツが好きになる機会の創出

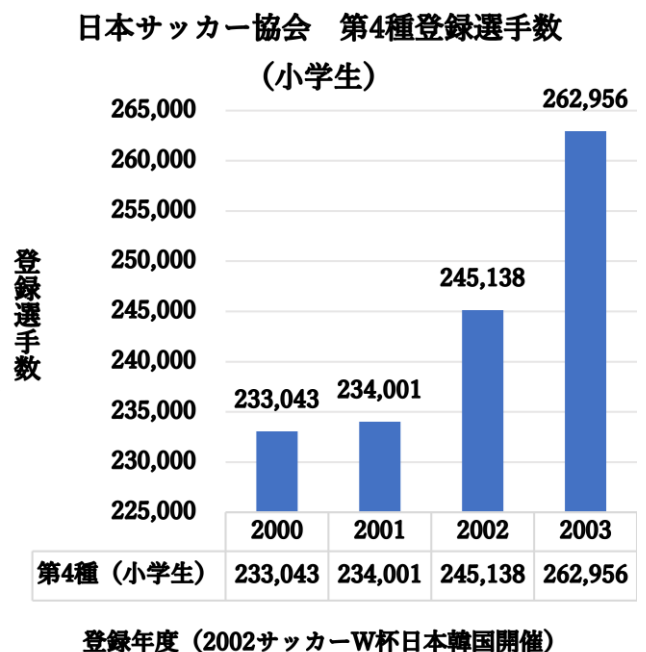
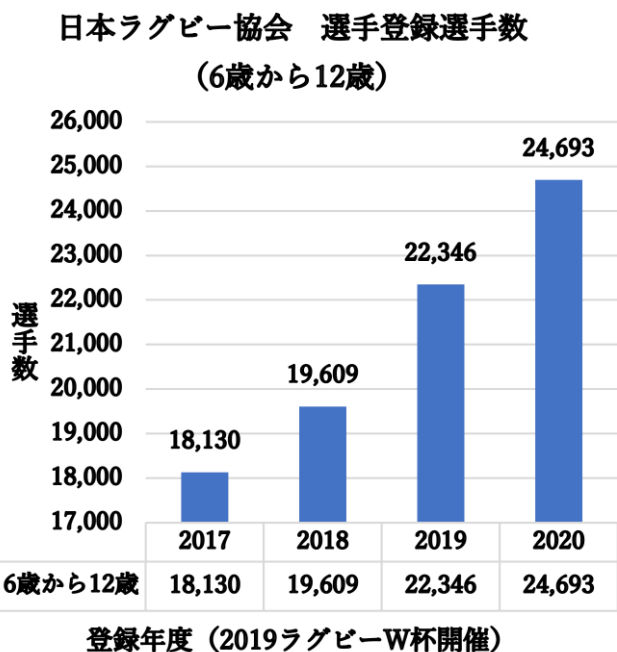
- 1928年にアメリカの医学者スキヤモン発表した「発育・発達曲線」によると、人間の神経系は生まれてから8歳頃までに急速に発達する。
- 12歳頃には、20歳時と比較して、ほぼ100%神経系は完成する。



日本におけるラグビー・サッカーW杯開催前後の登録者数 (小学生)

1 運動・スポーツが好きになる機会の創出

- ラグビー・サッカーW杯開催前後から急激に登録者数が増加している。



幼児期運動指針（平成 24 年 3 月）

1 運動・スポーツが好きになる機会の創出

○幼児期において、遊びを中心とする身体活動を十分に行うことは、多様な動きを身に付けるだけでなく、心肺機能や骨形成にも寄与するなど、生涯にわたって健康を維持したり、何事にも積極的に取り組む意欲を育んだりするなど、豊かな人生を送るための基盤づくりとなる。



この指針は、運動習慣の基盤作りを通して、幼児期に必要な多様な動きの獲得や体力・運動能力の基礎を培うとともに、様々な活動への意欲や社会性、創造性などを育むことを目指すものです。

幼児期運動指針のポイント

1. 多様な動きが経験できるように様々な遊びを取り入れる
2. 楽しく体をうごかす時間を確保する
3. 発達の特性に応じた遊びを提供する

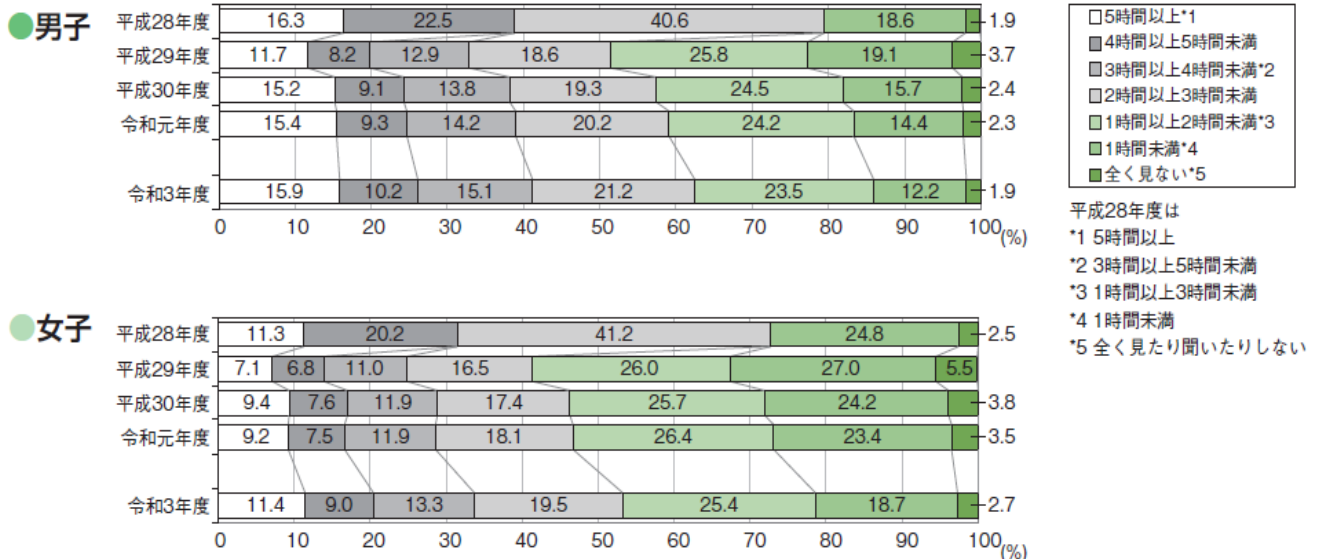
幼児は様々な遊びを中心に毎日、60分以上、楽しく体を動かすことが大切です！

スクリーンタイムの増加（全国小学校）

2 発育・発達段階に対応したスポーツ環境の整備

○学習以外のスクリーンタイムは、「2時間以上」の割合が増加しており、特に男子が長時間化している。（全国体力・運動能力、運動習慣等調査）

〔テレビやゲームの画面を見る時間の経年変化〕

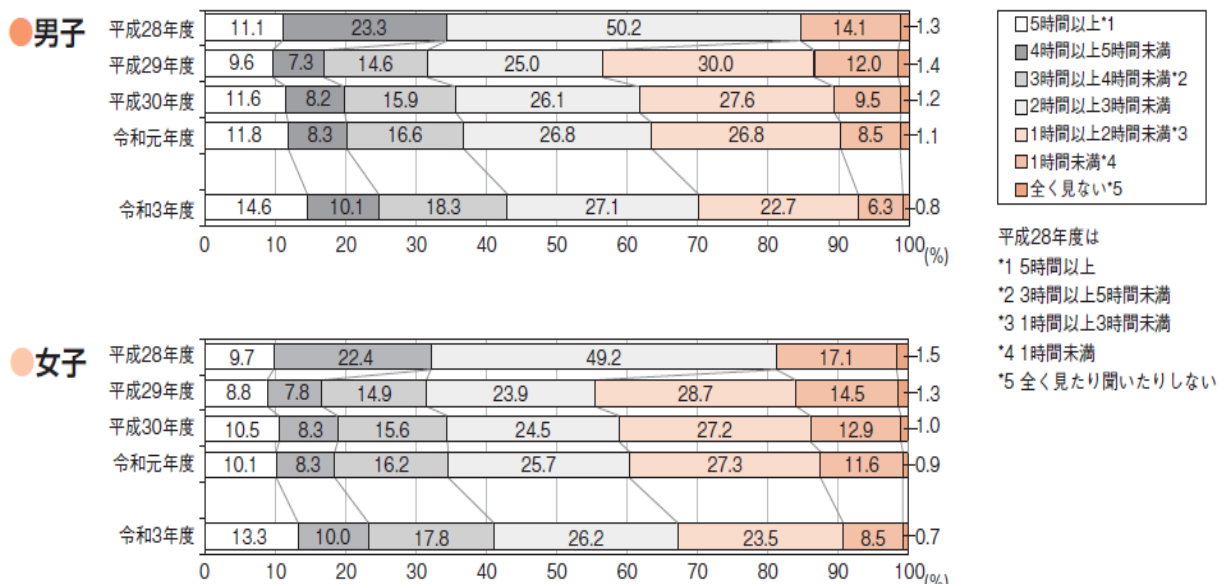


スクリーンタイムの増加（全国中学校）

2 発育・発達段階に対応したスポーツ環境の整備

○学習以外のスクリーンタイムは、「2時間以上」の割合が増加しており、男女ともに長時間化している。（全国体力・運動能力、運動習慣等調査）

〔テレビやゲームの画面を見る時間の経年変化〕



いきいき運動部活動（4訂版）

2 発育・発達段階に対応したスポーツ環境の整備

○生徒がいきいきと運動部活動に取り組めるよう、これからの運動部活動に携わる関係者が理解・実践すべき重要な事項をまとめたもの。（平成30年9月）



重要事項

- I ゆとりある生活の確保
適切な休養日の設定、学校単位で参加する大会等の見直し
- II 指導の充実
合理的でかつ効率的かつ効果的な活動の推進のための取組
- III 楽しく安全な運動部活動
生徒のニーズを踏まえたスポーツ環境の整備
- IV 開かれた運動部活動
適切な運営のための体制整備
- V 持続可能な運動部活動にむけて
役割分担と抜本的改革の推進

アーバンスポーツに関連する競技団体

3 ファミリースポーツ等の機会の充実

○オリンピック競技に採用されたことにより注目を集めている。

種目	(公財) 日本オリンピック協会 (JOC) 加入団体	(公財) 日本スポーツ協会 (JSP0) 加入団体	(公財) 兵庫県スポーツ協会 加入団体
3×3 (バスケットボール)	(公財) 日本バスケットボール協会	(公財) 日本バスケットボール協会	(一財) 兵庫県バスケットボール協会
スポーツ クライミング	(公財) 日本山岳・スポーツクライミング協会	(公財) 日本山岳・スポーツクライミング協会	兵庫県山岳連盟
BMX フリースタイル	(公財) 日本自転車競技連盟	(公財) 日本自転車競技連盟	なし
スケートボード	(一社) ワールドスケートジャパン	※準加盟 (一社) ワールドスケートジャパン	なし

兵庫県民の運動実施率（県民スポーツ意識調査）

4 誰もが気軽に参画できるスポーツ機会の充実

○週1日以上運動した人の割合は30代から50代が低く、また、女性で「全く運動・スポーツを行わなかった」と回答した割合が高くなっている。



地域のスポーツニーズ（県民スポーツ意識調査）

4 誰もが気軽に参画できるスポーツ機会の充実

- 全地区共通して、「散歩・ウォーキング」の需要が高い。
- 全体的に個人で楽しめる種目へのニーズが高く、競技種目ではない軽めの運動へのニーズが高くなっている。
- 登山や釣りなど、各地区の特色を活かした種目が上位に上がっている。

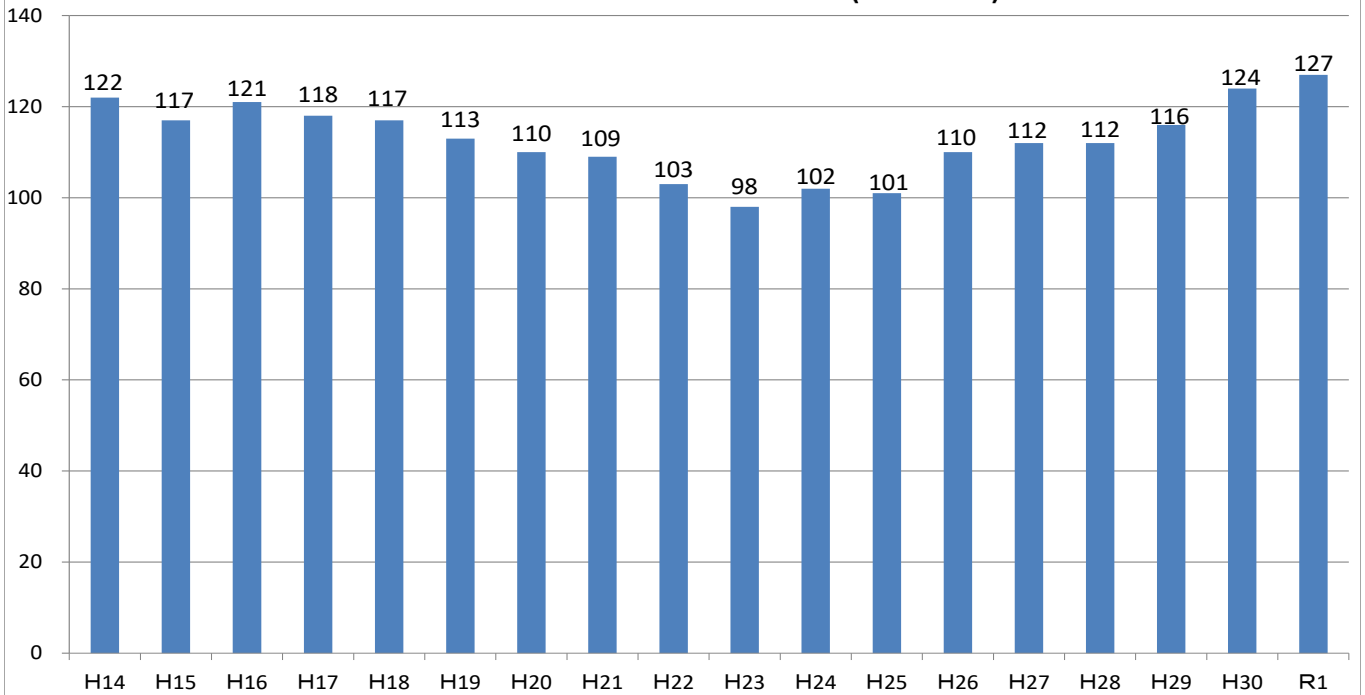
	1位	2位	3位	4位	5位
神戸	散歩・ウォーキング 49.2%	階段昇降 14.8%	ジョギング・ランニング 12.3%	体操 (ラジオ体操含む) 12.3%	ゴルフ (コース) 8.2%
阪神	散歩・ウォーキング 45.0%	ゴルフ (コース) 10.4%	階段昇降 9.2%	サイクリング 9.2%	ヨガ・ピラティス 6.9%
播磨東	散歩・ウォーキング 46.0%	階段昇降 11.0%	体操 (ラジオ体操含む) 10.0%	ジョギング・ランニング 9.6%	ゴルフ (コース) 8.6%
播磨西	散歩・ウォーキング 47.4%	体操 (ラジオ体操含む) 12.2%	階段昇降 9.9%	ジョギング・ランニング 9.4%	ゴルフ (コース) ゴルフ (練習場) ※ともに7.0%
但馬	散歩・ウォーキング 49.4%	体操 (ラジオ体操含む) 15.1%	階段昇降 8.4%	トレーニング 7.8%	ゴルフ (コース) 7.2%
丹波	散歩・ウォーキング 40.3%	体操 (ラジオ体操含む) 9.7%	階段昇降 ゴルフ (練習場) ※ともに8.2%		登山 ヨガ・ピラティス ※ともに7.5%
淡路	散歩・ウォーキング 44.1%	体操 (ラジオ体操含む) 8.8%	階段昇降 7.8%	釣り 5.9%	サイクリング 4.9%

県立学校体育施設開放事業

4 誰もが気軽に参画できるスポーツ機会の充実

○本事業は、県民の健康の増進及び体力の向上、生涯スポーツの普及と振興を図るとともに、地域に親しまれる学校づくりの促進を図るため、学校体育施設を学校教育活動に支障のない範囲において提供することを目的としている。

県立学校体育施設開放事業 実施校数(H14~R1)



○事業の変遷

- 昭和 43 年度 「勤労青少年日曜スポーツ広場」として、18 校を指定し、実施。
- 昭和 46 年度 「県民スポーツ広場」に名称を変更し、30 校を指定し実施。
- 昭和 54 年度 「県民すこやか広場」に名称変更。
- 昭和 55 年度 「県民ナイター広場」を開始。
- 平成 14 年度 「県立学校体育施設開放事業」に名称変更

次世代通信技術を活用した新たなスポーツ機会の創出 ～ローカル5Gを活用したスポーツ科学の実証実験から～

4 誰もが気軽に参画できるスポーツ機会の充実

○令和3年度には、ローカル5Gなど最新ICTを活用し、スポーツ分野でのイノベーションを図る実証実験に、県立三木総合防災公園をフィールドとして企業等と共同で行った。今後は、システムの普及を促進します。

<AIカメラを活用した新たな観戦システム>

AIカメラによって自動でボールを追いかけて、まるで人が撮影したような映像を自動配信することができ、現地に来られずとも観戦を楽しむことができます。



有人でのカメラ撮影になると
機材や人の確保が必要



AIカメラによって無人で試合を
撮影することが可能
*テレビ中継のように自動で
ボールを追いかけて撮影します



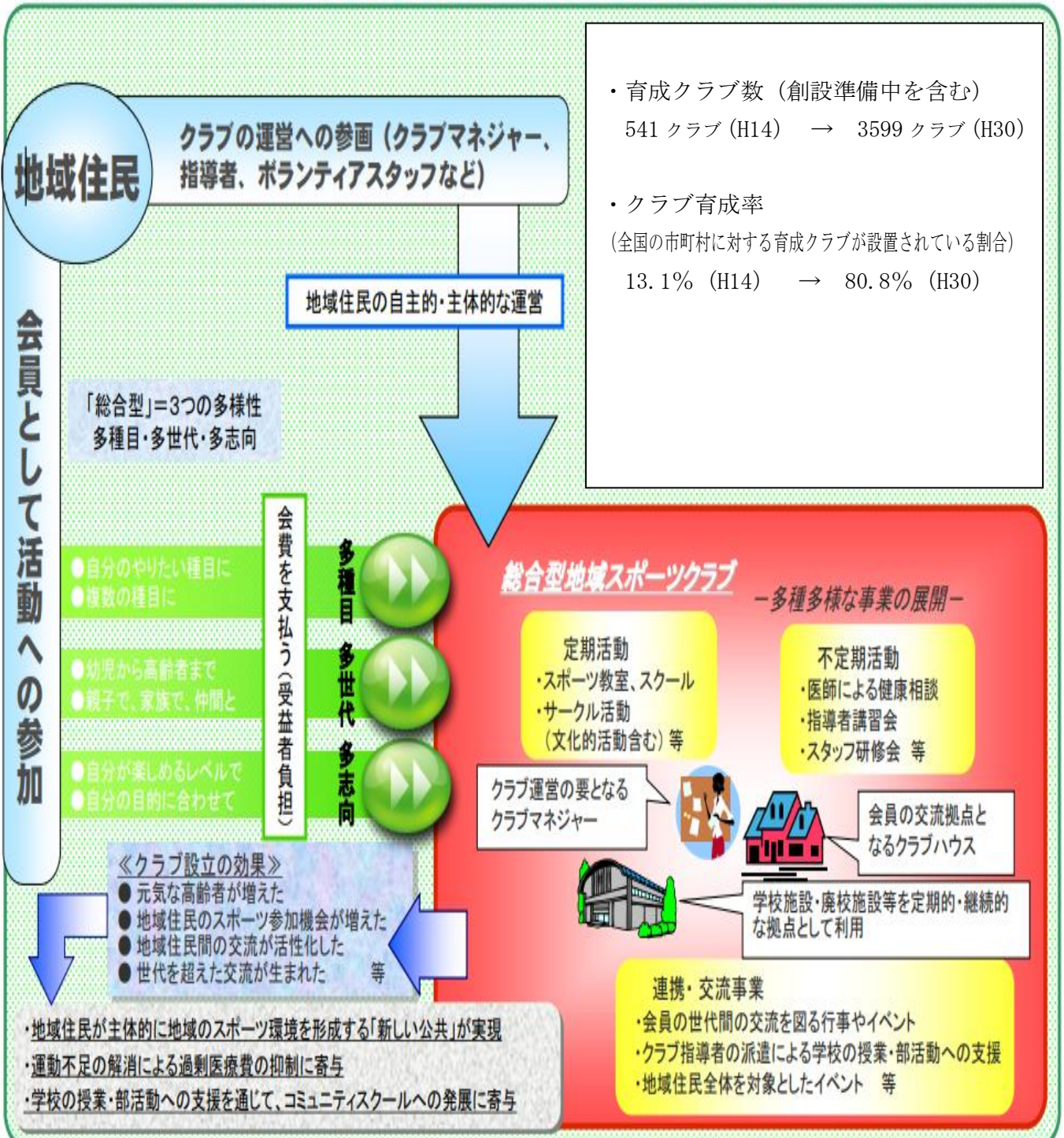
現地にいなくても好きな時に
視聴可能

総合型地域スポーツクラブ

5 総合型地域スポーツクラブの質的充実

○身近な地域でスポーツに親しむことのできる子供から高齢者まで（多世代）、様々なスポーツを愛好する人々が（多種目）、初心者からトップレベルまで、それぞれの志向・レベルに合わせて参加できる（多志向）、という特徴を持ち、地域住民により自主的・主体的に運営されるスポーツクラブ。

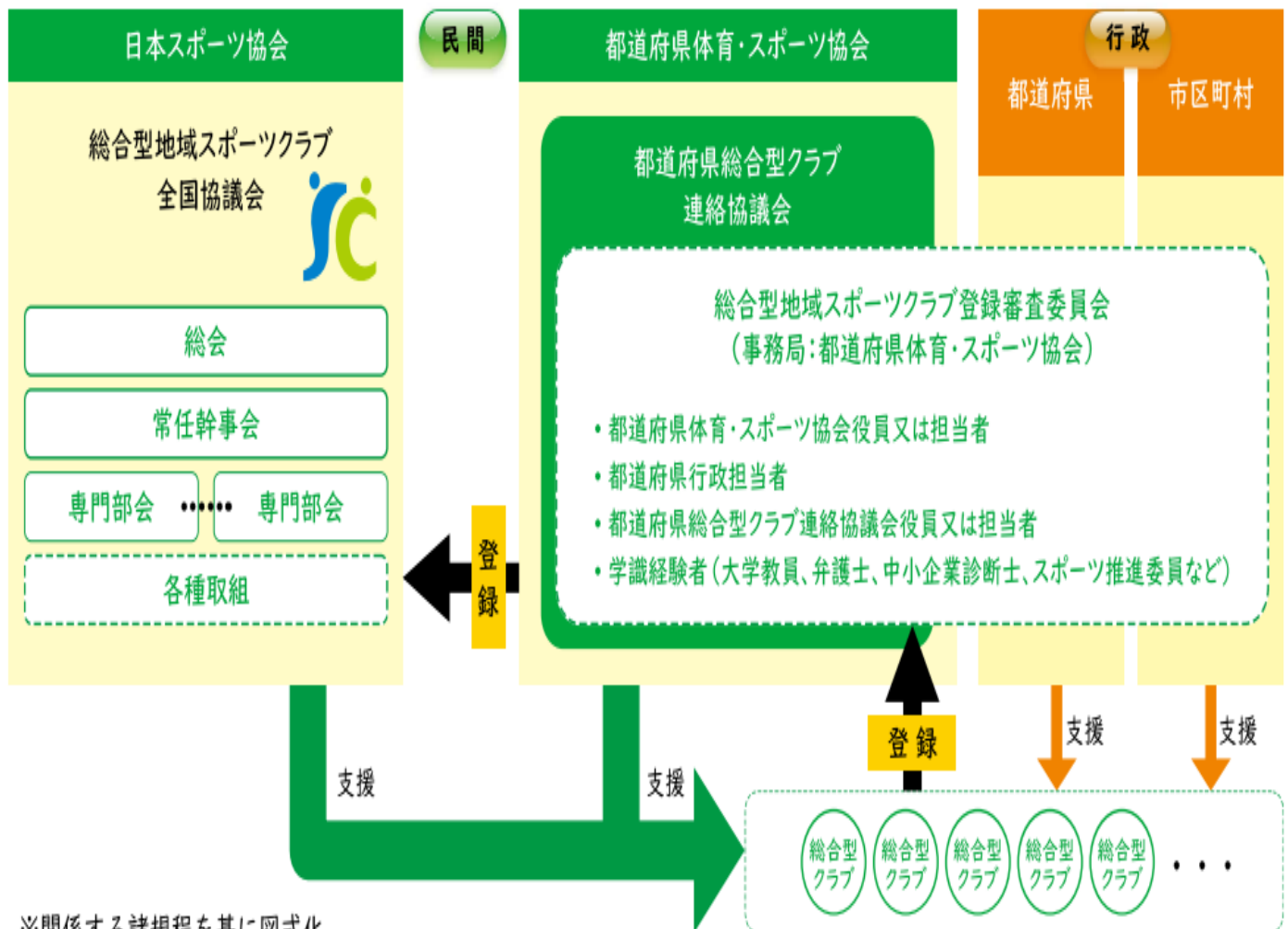
総合型地域スポーツクラブについて



総合型地域スポーツクラブ登録認証制度の仕組み

5 総合型地域スポーツクラブの質的充実

○日本スポーツ協会内組織である「総合型地域スポーツクラブ全国協議会」が定めた基本基準と都道府県独自基準を基に、申請のあったクラブについて審査を行う。基準を具備していると認められたクラブは、総合型地域スポーツクラブ全国協議会に登録され、日本スポーツ協会公認のクラブとなる。



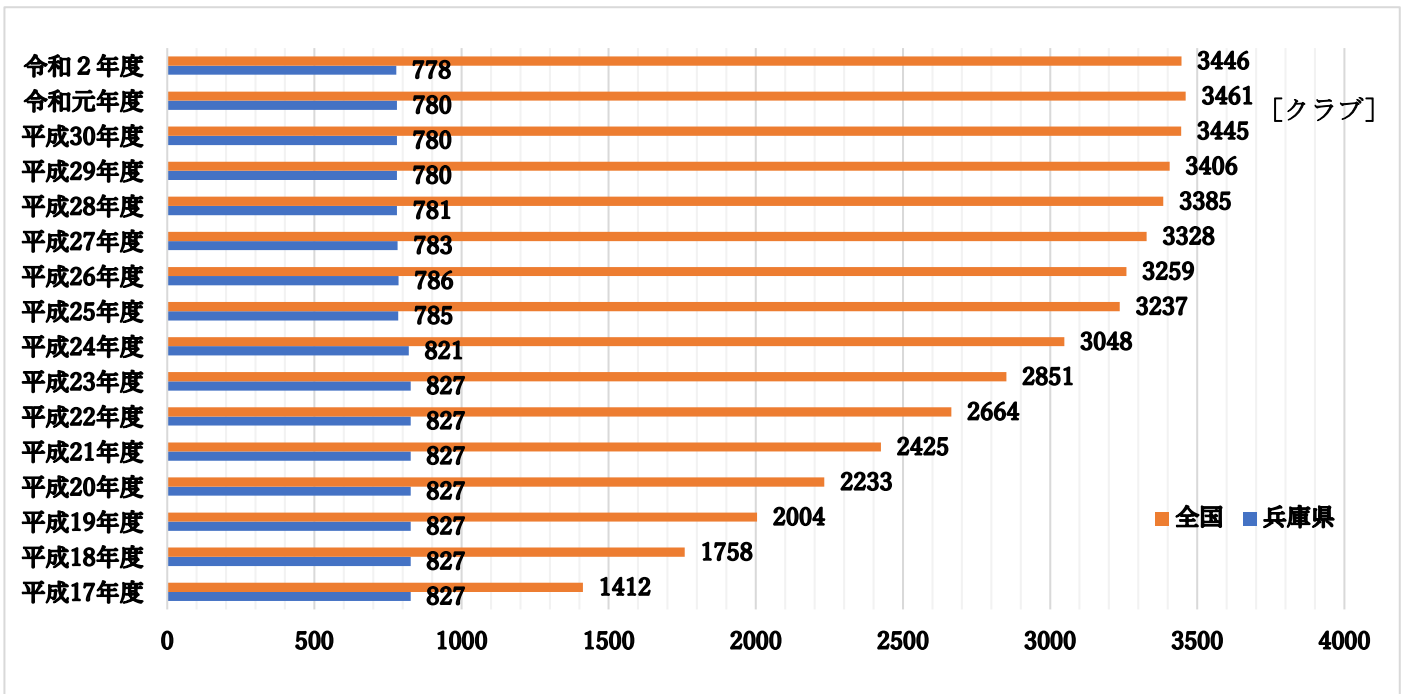
※関係する諸規程を基に図式化

※認証に関する制度の運用体制は関係規程の整備状況を踏まえて今後検討

スポーツクラブ創設数（全国・兵庫県比較）

5 総合型地域スポーツクラブの質的充実

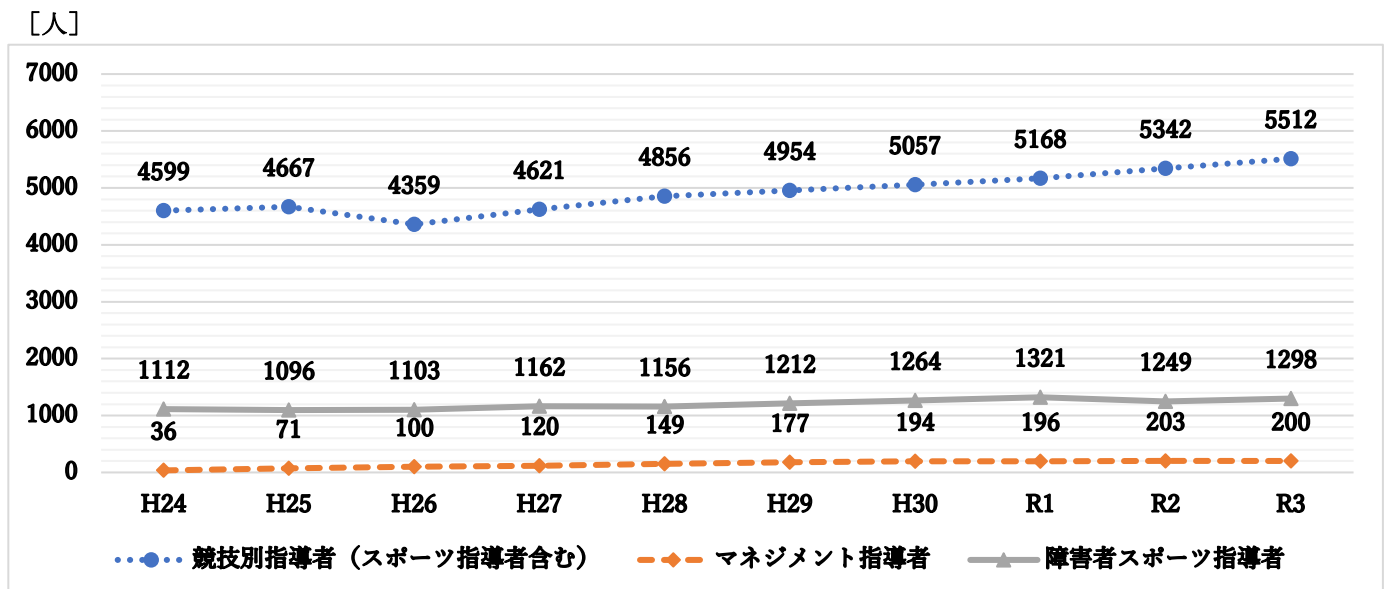
○全国的には増加傾向にあるが、県内スポーツクラブは人口減少とともに減少傾向にある。
 ※本県778クラブのうち法人格を有するクラブは2クラブ。



県内の（公財）日本スポーツ協会及び（公財）日本パラスポーツ協会公認スポーツ指導者数

5 総合型地域スポーツクラブの質的充実

○競技別指導者の取得（スポーツ指導者基礎資格含む）の取得者数は年々増加している。
 ○クラブマネジメント資格の取得者、障害者スポーツ指導者はほぼ横ばいである。



ワールドマスターズゲームズの概要

6 行政、スポーツ団体、大学、民間事業者の連携強

○国際マスターズゲームズ協会（IMGA）が4年ごとに主催する概ね30歳以上の成人・中高年のスポーツ愛好者を対象とした生涯スポーツの国際総合競技大会である。

<参加目標人数>

5万人（海外2万人、国内3万人）

<開催競技>

公式競技(35競技 59種目)

アーチェリー、陸上競技、バドミントン、野球、バスケットボール、カヌー、自転車
ダンススポーツ、サッカー、フライングディスク、ゲートボール、ゴルフ
グラウンド・ゴルフ、ハンドボール、ホッケー、柔道、空手道、ライフセービング
オリエンテーリング、ボート、ラグビーフットボール、セーリング、射撃、ソフトボール
ソフトテニス、スカッシュ、水泳、卓球、テコンドー、テニス、ボウリング
トライアスロン、綱引、バレーボール、ウエイトリフティング

オープン競技(33競技)

ディスクゴルフ、パドルテニス、トレイルランニング、スポーツクライミング、ボート
車椅子ソフトボール、バトントワーリング、囲碁ボール、ローンボウルズ
ノルディック・ウォーキング、ペタンク、ウォーキング
西宮市障害者スポーツ競技大会（車いすバスケットボール、ロッキングバレー、ボッチャ）
キンボールスポーツ、還暦野球、ビーチラグビー、スポーツウエルネス吹矢
SEA TO SUMMIT（カヤック＋自転車＋登山）、ビリヤード、マラソン、ラフティング
軟式野球、サーフィン、タッチラグビー、ダブルダッチ、ペタンク、トライアスロン、
フラッグフットボール、ウォーキング

<過去大会の参加人数>

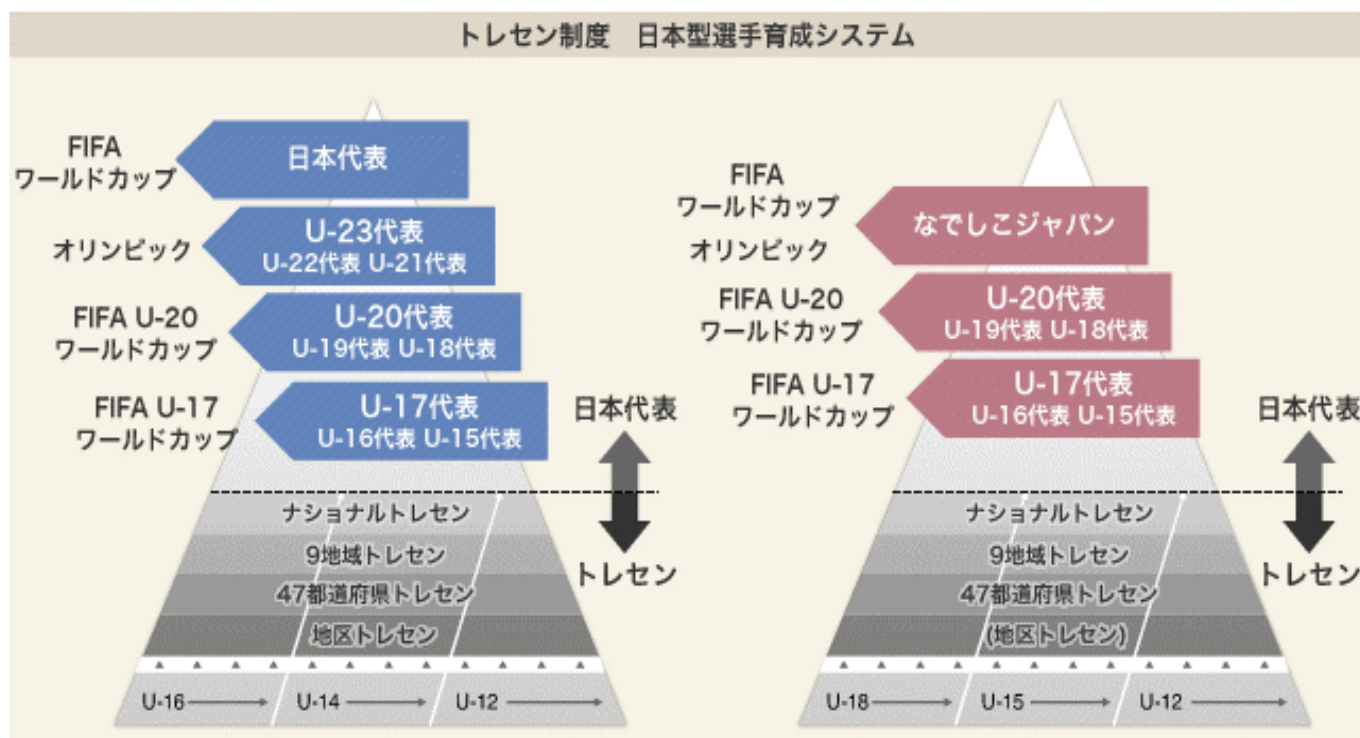
2009年 シドニー大会	約3万人
2013年 トリノ大会	約2万人
2017年 オークランド大会	約2万6千人

一貫指導システム（参考 日本サッカー協会）

8 アスリートの育成と強化環境の整備

「ナショナルトレーニングセンター制度」

「日本サッカーの強化、発展のため、将来日本代表選手となる優秀な素材を発掘し、良い環境、良い指導を与えること」を目的に始まったこの制度は、組織的にも活動内容においても充実したものとなり、トレセンを経験した選手から各年代の日本代表選手の多くが選出された。



県内各競技団体が実施するジュニアスポーツ教室等について

7 次世代アスリートの発掘・育成

- ジュニアスポーツ教室
内容：才能ある選手を発掘・育成するために、スポーツ教室を開催し、基本的技術等の指導や合同練習会を実施する。
対象：各競技団体が募集し、選出した小・中学生
- スーパージュニア育成プロジェクト
内容：15歳以下の優れた選手を対象に、基本的技術等の指導や強化合宿・練習等を実施し、国体への意識を高め、15歳以下選手の重点強化を図る。
対象：各競技団体が選考した15歳以下の優れた選手

女性特有の問題

8 アスリートの育成と強化環境の整備

1993年にアメリカスポーツ医学会に発表された女性アスリートの三主徴は「摂食障害」・「無月経」・「骨粗鬆症」でしたが、2007年に適切なエネルギー・アベイラビリティが確保されれば正常な月経、骨の健康も維持されるという考え方から、「摂食障害の有無に関わらない低エネルギー・アベイラビリティ」、「機能的視床下部性無月経」、「骨粗鬆症」の3つに変更されました。

低エネルギー・アベイラビリティ

エネルギー・アベイラビリティは1日の総エネルギー摂取量から運動中のエネルギー消費量を引いた値を除脂肪量(FFM)で除して求められ、日常生活に利用可能なエネルギーのことを指します。エネルギー・アベイラビリティが30kcal/kg FFM未満になると代謝やホルモン機能に異常をきたし、月経異常や骨粗鬆症、パフォーマンスや健康状態を害する可能性があると言われていています。

機能的視床下部性無月経

日本産婦人科学会の定義では、無月経とは90日以上月経がない状態をいいます。無月経には初経発来がない原発性無月経と、初経を経験した後に視床下部一下垂体系の異常により無月経となる続発性無月経があります。続発性無月経のうち運動が原因となるものを運動性無月経といいます。運動性無月経は激しいスポーツ活動や低体脂肪率や低体重が原因となることが多く、競技レベルの比較的高いアスリートや、陸上長距離や新体操等の体脂肪率が低い持久系競技や審美系競技に多くみられます。

骨粗鬆症

骨粗鬆症とは骨折リスクが増大した状態をいいます。WHO(世界保健機関)では「骨粗鬆症は、低骨量と骨組織の微細構造の異常を特徴とし、骨の脆弱性が増大し、骨折の危険性が増大する疾患である」と定義しています。一般に、運動による力学的ストレスが骨に刺激を与えて骨量を増加させることが知られていますが、運動量が多く、極端な食事制限や食行動に異常のある女性アスリートでは骨塩量の減少が認められ、競技力及び健康面に悪影響を及ぼすことが指摘されています。

【抜粋】 スポーツ庁委託事業女性アスリート育成・支援プロジェクト
「女性アスリートのコンディショニングと栄養」 より

https://www.waseda.jp/prj-female-ath/wp/wp-content/themes/athlete3/images/img_h1.png

ガバナンスコード

8 アスリートの育成と強化環境の整備

○スポーツ庁より「スポーツ界の透明性、公平・公正性の向上」を実現するためにスポーツ団体ガバナンスコードの策定を行った。

スポーツ団体ガバナンスコード
＜一般スポーツ団体向け＞

令和元年 8 月 27 日
 スポーツ庁
JAPAN SPORTS AGENCY

ガバナンスコードの個別の規程及びその解説を掲載している。規程は 13 の原則の下に、より具体的な原則・規範を求めている。中央競技団体においては、各規程及び解説の内容を踏まえ、適正なガバナンスの確保に向けた取組を進めることが求められる。

令和元年 8 月 27 日には、一般スポーツ団体向けの「スポーツ団体ガバナンスコード」が策定された。

(原則 1)
組織運営等に関する基本計画を策定し、公表すべきである。

(原則 2)
適切な組織運営を確保するための役員等の体制を整備すべきである。

スポーツ医・科学について

8 アスリートの育成と強化環境の整備

○スポーツ医・科学とは、スポーツ医学 (sports medicine) とスポーツ科学 (sports science) の総称である。

○スポーツ医学は、競技スポーツ選手の身体能力の強化、好成績を出すための身体の使い方、故障の予防、治療などを取り扱う、総合的な専門医学分野のことを指す。スポーツ医学では、選手本人を中心にして、内科医、外科医、アスレティックトレーナー、理学療法士、作業療法士、柔道整復師、鍼灸師、あん摩マッサージ指圧師、コーチなどがチームを構成している。

○スポーツ科学とは、スポーツを考察の対象とした学問の総称で、体育科学と呼ばれることもある。また「科学」の指し示す内容によって、自然科学的領域のみに限定する場合や、自然科学的領域に加え、人文科学・社会科学的領域をも含める場合もある。後者においてはスポーツ学、体育学と呼ばれることもある。

兵庫県ゆかりの選手（オリンピック参加数）

8 アスリートの育成と強化環境の整備

兵庫ゆかりの選手とは

オリンピック日本代表選手団名簿（公益財団法人日本オリンピック委員会による）に監督・選手として記載されている者で、次の①②③④のいずれかに該当する者。

- ①「兵庫県出身」と記載されている者
- ②県内の学校に在学する者、または県内の小学校・中学校・高等学校・大学を卒業した者
- ③県内に勤務する者
- ④県内に在住する者

（大会名）	男子	女子	合計
北京オリンピック（2008年）	7名	19名	26名
ロンドンオリンピック（2012年）	4名	18名	22名
リオオリンピック（2016年）	6名	15名	21名
東京オリンピック（2020年）	15名	29名	44名

国体順位と人口との関係性

9 トップアスリートが活躍できる場の支援

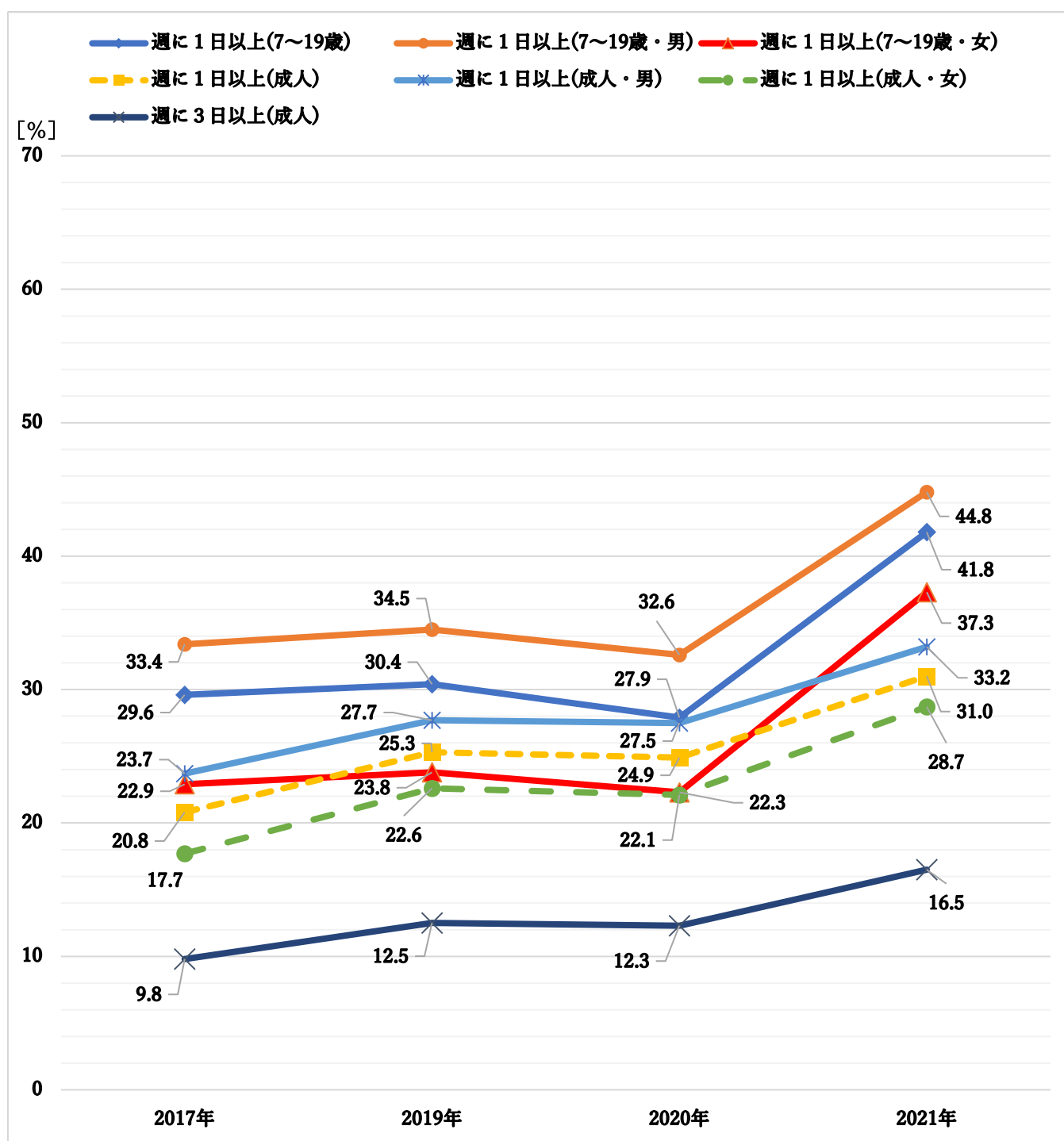
- 全体的に都道府県の人口と国体成績は相関関係にあり、兵庫県の人口規模は7位に位置している。国体順位と人口と関係性から本県が国体において8位を目指すことは妥当な目標である。

自治体	第74回茨城国体成績(得点)	都道府県人口	
		(万人)	順位
茨城	1位(2569)	285	11
東京	2位(2217)	1,396	1
愛知	3位(1789)	753	4
埼玉	4位(1735)	734	5
神奈川	5位(1643.5)	921	2
大阪	6位(1552)	881	3
千葉	7位(1470.5)	628	6
京都	8位(1410)	256	13
北海道	9位(1397.5)	526	8
福井	10位(1391)	76	43
福岡	11位(1337.5)	510	9
岡山	12位(1267)	187	20
兵庫	13位(1184.5)	543	7

障害者のスポーツ・レクリエーションの実施率（全国）

10 障害者スポーツの裾野拡大

○障害者のスポーツ・レクリエーション（以下「スポーツ等」という）実施率については、20歳以上は長期的には上昇傾向にあるが、2020年は前年と比較するとほぼ横ばいである。また、7～19歳については、若干の低下傾向にあるとともに、非実施者の割合が上昇している。男女別では、20歳以上、7～19歳ともに男性の実施率が高く、7～19歳では男女の実施率の差が大きい。また、女性については、20歳以上と7～19歳の実施率の差が小さくなっている。



（スポーツ庁「令和2年度『障害者のスポーツ参加促進に関する調査研究』の概要」より抜粋）

県内の障害者スポーツ関連団体

10 障害者スポーツの裾野拡大

○県内で活動する競技団体（R3年度現在：35団体）や施設等のネットワーク組織である障害者スポーツネットひょうご等と連携し、協働事業や情報共有を行っている。

1	兵庫パラ陸上競技協会	19	近畿ブラインドテニス協会
2	兵庫県車いすバスケットボール連盟	20	兵庫県障害者ローンボウルズ連盟
3	兵庫県身体障害者アーチェリー連盟	21	兵庫県障害者空手道部会
4	兵庫県障害者卓球連盟	22	兵庫県ディスクゴルフパワーリフティング連盟
5	兵庫県身体障害者水泳連盟	23	兵庫県身体障害者吹矢協会
6	兵庫県身体障害者グラウンドゴルフ協会	24	兵庫県障害者ふうせんバレーボール連盟
7	兵庫県ローリングバレーボール連盟	25	兵庫県卓球バレー協会
8	兵庫県身体障害者野球連盟	26	兵庫県障がい者バドミントン協会
9	兵庫県ブラインドマラソン協会	27	兵庫県障害者社交ダンス連盟
10	兵庫県障害者タデムサイクリング協会	28	兵庫県脳性麻痺7人制サッカー協会
11	日本障害者乗馬協会 関西支部	29	兵庫県メンタルケアフットサル連盟
12	兵庫県ボッチャ協会	30	兵庫県電動車椅子サッカー協会
13	兵庫障害者フライングディスク協会	31	兵庫県知的障がい者陸上競技協会
14	兵庫県ゴールボール協会	32	兵庫県トライアスロン協会
15	兵庫県チェアスキー協会	33	ひょうごシッティングバレー連盟
16	兵庫県特別支援学校（知的）サッカー連盟	34	兵庫県知的障害者水泳連盟
17	兵庫県視覚障害者サッカー協会	35	兵庫県パラストリートダンス連盟
18	兵庫県車いすテニス協会		

障害者スポーツ出前講座

10 障害者スポーツの裾野拡大

○兵庫県では「障害者スポーツへの理解向上・裾野拡大」のため、障害者アスリートによるパラスポーツ体験や講演等の出前講座を実施している。令和2年度は約40回実施した。

市町	会場	内容	R2年度実施日
明石市	明石市総合福祉センター	ボッチャ	7/30
	明石大蔵会館	ボッチャ	11/23
	明石市大蔵海岸運動公園	ゲートボール	11/25
赤穂市	県立赤穂特別支援学校	オリパラ教育・車いすバスケット	11/26
伊丹市	伊丹市立障害者福祉センター	ヨガ教室	11/1、12/6
	県立阪神昆陽高校	車いすバスケット、ボッチャ	11/10
		車いすバスケット	12/4
小野市	小野市立小野特別支援学校	オリパラ講演（ボッチャ）	11/24
加古川市	加古川市立総合体育館	車いすバスケット	11/12
加西市	加西市立善防中学校	車いすバスケット	1/27
神河町	神河町立寺前小学校	車いすバスケット	2/3
香美町	香美町立余部小学校	ゴールボール等	1/28
	香美町立香美小学校	ゴールボール等	11/17
三田市	三田市城山体育館	オリパラ教育・車いすバスケット	12/9
新温泉町	新温泉町浜坂温泉保養荘	卓球バレー教室	10/3
		卓球バレー	11/7
洲本市	洲本市文化体育館	ローンボウルズ	12/12
高砂市	県立高砂高校	車いすバスケット	8/26
多可町	多可町立中中学校	ボッチャ	11/8
たつの市	県立赤穂特別支援学校	パラリンピアン講演	10/16
	たつの市立神岡小学校	車いすバスケット	12/16
神戸市	コミュニティ café Rico	ニュースポーツ	7/31、8/28 9/25、10/13 11/17
	県立障害者スポーツ交流館	卓球バレー	9/26
		ヨガ教室	10/23
	神戸ハーバーランド	パラスポーツワールド	10/10
	神戸しあわせの村	パラリンピック写真展	10/13
		パラスポーツ王国	11/3
神戸市立神港橋高等学校	ボッチャ、アンプティサッカー等	11/9	
丹波市	丹波市ゆめタウン	ヨガ教室	10/9
	丹波市氷上住民センター	ボッチャ	10/21
	丹波市立青垣小学校	ボッチャ	11/11
	丹波市立春日部小学校	ゴールボール	11/13
	イオンモール伊丹	ストリートダンス	11/14
姫路市	姫路じばさんびる	ヨガ教室	11/27
三木市	三木市コミセン	ボッチャ、卓球バレー	11/29
	三木市立三木中学校	車いすバスケット	12/15
養父市	生野老人福祉センター	ボッチャ	7/8
	養父市立八鹿小学校	パラリンピアン講演	11/5

公認障がい者スポーツ指導者

12 障害者スポーツへの理解促進

○障がい者スポーツ指導者資格は、日本国内の障害者スポーツの普及と発展を目指して、公益財団法人日本パラスポーツ協会が公認する資格制度に定めたもので、令和3年度現在、県内では1,249人が登録している。

<初級障がい者スポーツ指導員>

障害者のスポーツ参加のきっかけ作りを支援する指導員

<中級障がい者スポーツ指導員>

地域の障害者スポーツ振興のリーダーとして、指導現場で十分な知識や経験に基づいた指導をする指導員

<上級障がい者スポーツ指導員>

障害者スポーツに関する高度な専門知識だけでなく、初級・中級指導員への助言や事業の企画運営など多様なスキルを持って障害者スポーツに関わる指導員

<障がい者スポーツコーチ>

パラリンピックをはじめとする国際大会で活躍する競技者に対して、専門的に育成・指導ができる高度な技術を備えた指導者

<障がい者スポーツ医>

障害者のスポーツ・レクリエーション活動において、様々な疾患や障害に対応し、多くの障害者が安全にスポーツに取り組むための、効果的な医学的サポートを行う役割を担う。

<障がい者スポーツトレーナー>

スポーツトレーナーとして質の高い知識・技能を有し、かつ障害に関する専門知識を有し、アスレティックリハビリテーション及びトレーニング、コンディショニング等にあたる役割を担う。

<年度別 県内の登録者数 ※政令指定都市（神戸市）含む> (人)

	上 級	中 級	初 級	スポーツコーチ	スポーツ医	スポーツトレーナー	合 計
H25年度	28	158	884	7	13	6	1,096
H26年度	30	170	874	8	14	7	1,103
H27年度	31	189	910	9	16	7	1,162
H28年度	33	189	898	11	17	8	1,156
H29年度	33	203	933	14	20	9	1,212
H30年度	32	204	980	17	21	10	1,264
R1年度	33	225	1,007	17	27	12	1,321
R2年度	31	206	959	15	25	13	1,249